

## 080311 第4回市民科検討委員会 委員の意見

## 1 教育委員会挨拶

- ・市民科の学習内容を総合的に検討して、未来志向の新しい市民科をつくっていくために三つの点を中心に議論を進めてきた。これからの時代を生きる子どもたちに必要な、また、ふさわしい学習内容の整理、教員にとってわかりやすい学習内容・指導方法等の提示、持続可能で効果的な市民科学習の推進について、本日入れて4回の議論を重ねてきた。
- ・市民科は品川区の教育の象徴であり、柱となるものである。今後、大きく再構築していくということは、私にとっても教員にとってもそして子どもたちにとっても非常に大きな挑戦になる。
- ・本日は、12月に実施した市民科に関するアンケート調査の結果、分析、考察等について報告をする。これらの調査結果から、明らかになった成果・課題から、子どもたちの学びの実態や教員が授業実践において感じている手応えや困難さなど、貴重なデータが得られたものと考えている。
- ・本日はこれらの結果を踏まえ、委員の方々の意見を伺いながら、市民科のこれからの方向性について検討議論をしていく。特に、次期教育要領の改訂に向けて、理念や目標の見直し、必要な資質能力の整理、そして、持続可能な推進体制の構築について具体的な道筋を描いていきたい。
- ・今年度最後の会議となるが、令和8年度以降の市民科の充実に向けた重要な一歩となる。委員の皆様それぞれの視点から様々な意見をいただきたい。

## 2 報告内容

## (1) これからの市民科について (第2次案)

質疑等なし

## (2) 市民科に関する児童・生徒、教員調査について (結果、分析・考察、今後に向けて)

## ○委員 L

- ・調査結果について、6年生と9年生、小学校・前期課程と中学校・後期課程で分けているが特徴的な点は。
  - ➔6年生と9年生については、これまで実施してきている児童・生徒アンケートでは9年生になると肯定的回答の割合が伸びる傾向が見られた。今回のアンケートもその傾向が見られた反面、子-2、子-3では逆の傾向がある(設問内容の対象が関連している可能性)。小学校・前期課程と中学校・後期課程の教員については、割合は同様の傾向を示しているが、自由記述や選択の内容で若干の差異が見られている(例えば、教-11の選択を見ると指導書の活用などの割合など)。

## 3 協議

## (1) 調査結果を踏まえての検討・協議

## ○委員 A

- ・アンケート調査の結果から、市民科が一定の成果を出していることがわかる。持続可能な社会の創り手を育成していくためには、バラバラではなく、つなげていくことが大事。品川区は一貫教育が強みとしてある。
- ・総合的な学習や特別活動には教科書がない。市民科には教科書がある利点と教科書があることによる課題もあるかもしれない。これからの教員には授業をつくるカリキュラムデザインの力が必

要となる。教科書があることでやりやすいが、教科書通り・教科書頼みのみになることがないようにしていく必要がある。

- ・特別活動は、学級や学校での状況に応じるリアルタイム・リアリティーがある。こうした柔軟性や弾力性を今後どう取り入れていくのがポイントになる。
- ・特別活動の資質・能力としては、「社会参画」「自己実現」「人間関係」がある。

#### ○委員 B

- ・現行の道徳科の「考え、議論する道徳」においては、知的理解のみでは十分ではなく、感性も大切であり、特別活動との連携も大切である。その際、発達段階に応じた対応を図る必要がある。
- ・道徳科の教科書の活用については、現在のステップ「認識」での活用が考えられる。また、実践した後の「深化」の場面で活用していくことで、実際の体験と教科書に描かれた物語との対比を可能とし、知的理解に留まらない道徳教育を推進したい。

#### ○委員 C

- ・先生方が負担に感じるのではなく、やってみたいと思える市民科にしてほしい。
- ・校区教育協働委員や学校地域コーディネータに係る設問で相反する意見があることが気になる。学校や人による温度差、意識の違いがあるのかもしれない。平均化、平準化できるように情報共有・情報発信を進めてほしい。

#### ○委員 D

- ・自由記述の内面に関する内容は大切である。メンタルやソーシャルスキルなど引き続き充実して欲しい。
- ・スクールカウンセラーなど外部人材との連携を進めていくことで効果が出ると思う。そうした連携も市民科では必要なのだと考える。

#### ○委員 E

- ・地域との関連の希薄さが気になった。地域との場が足りないのか。学校地域コーディネータは全校配置を目途に進めてきたが、今後は質の向上を図る必要がある。
- ・先生方がやりやすい市民科の改訂が必要。総合的な学習、特別活動、道徳をやってきた先生が市民科で生かされる、市民科をやってきた先生も生きるようにしてほしい。
- ・体験、実学が市民科の魅力、リアルにつなげていくことが市民科の充実につながる。
- ・「探究」「市民科」については、テーマや関係先が多岐に渡るため、関係機関との連携の充実に向けた機会の創出も必要である。

#### ○委員 F

- ・地域の捉えが子ども、教員、地域で統一されていないのかもしれない。市民科を含め、発信の場を広げ、区全体の活性化につなげていく必要がある。
- ・校区教育協働委員、学校地域コーディネータの認識も共有・高めていく必要がある。役割など認識できるようにしていく必要がある。
- ・道徳をやりたい人、市民科をやりたい人など先生は様々だが、教員の感覚で終わらせず、引き継いでいける意識や体制整備が必要である。

#### ○委員 G

- ・アンケートの結果を見て、よい結果と認識している。特に「私主語」の内容が好結果ではないか。地域、文化となると低い傾向。第一は「私」、第二に「友人」、第三に「地域」という見方がある。現在できているところを成果として発信し、先生方の自信につなげていく。特に9年生の将来設

計領域は高い。

- ・ウェルビーイングの要素が多岐にみられる。ウェルビーイングを打ち出していくことも一つの視点である。
- ・文言は今後かと思うが、単語が多い。目標を「私」と「社会」で整理するなど、今後検討していく必要がある。

#### ○委員 H

- ・自分に対する肯定が高いのは思春期ではめずらしい。前向きな傾向がよい。
- ・先生方の教え方で 25%、1/4 程度が否定的である。データベース化（教材、人的資源など）などを進め、先生方の暗黙知を形式知にしていくことで環境を整えていくとよい。環境が整うと字とも集まる。
- ・これからは非認知能力の育成が重要。先生の指導によって副次的に高めていけるように、指導の在り方などについても考えていけるとよい。

#### ○委員 I

- ・子-2、子-3 と教-2、教-3 など教師と子どもで捉えが違う内容がある。子どもは、体験から自分事にどうつなげていくのか、教員は教科書と目の前の子どもの実態をどうつなげていくのか、市民科の在り方を考えていかなければならない。
- ・研修の充実を含め、今後も学校への支援の充実が必要。教科書の在り方についても、今後、検討が必要である。

#### ○委員 J（代読）

- ・探究的な学習については、品川探究サイクルなどが示され、今後の充実が期待できる。また、市民科についての年度当初の校内研修はよい機会である。

#### ○委員 K

- ・子どもたちの肯定的な様子は、自身の学校も同様の傾向。地域については、子どもたちは知らない様子。外のイメージをもっている。探究的な学習で地域貢献を視点としているが、地域に踏み出せない状況があるのかもしれない。
- ・現状、市民科には総合的な学習、特別活動、道徳の要素は入っているが、違うものを捉えられているのでは。今後、どう見せていくのか見当が必要。ステップについては、より汎用性のあるように改善できるとよい。
- ・教科書通りに進めなければいけない、教科書に縛られている現状・誤解がある。ここも指導する教員にとって分かりやすいものとしていく必要がある。

#### ○委員 L

- ・今回委員からいただいた意見を基に、課題については改善を反映し、改訂を進めていく。まずは、次年度の取組の推進に向け、事例の共有や内容の精選など進めていく。
- ・意見のあった地域や保護者への説明や共有の機会も、R8の取組を含めて、充実していけるようにしていく。

### 4 委員長からのまとめ

- ・教育関係のとどまらず、区全体での取組の広がりなど、市民科の使命は大きい。
- ・本協議から、現在の市民科の枠組み（「創造」と「探究」）は概ね委員の皆さんからの創意を得ていると考える。「創造」では、自分の身近な周囲をクリエイティブしていく、「探究」では、地域等へ

広がりよりアクティブにしていく。こうして示していくことで、粒立ちし分かりやすくなってきている。これは大きく国の方向と違わない。特に、品川区は1年生から9年生のたてのつながりがストロングポイントになる。

- ・実現に向けては、これまで教科書が支えてきた側面と教科書があることによって停滞していた点があるかもしれない懸念の両面が見られている。道徳の教科書の利活用の充実に向けた検討、ステップやプロセスを乱立させず集約していくことなど、分かりやすい市民科を構築できるようにしていく。
- ・「探究」の学習のプロセスでの「アクション」は、これまで実践してきた市民科の強みがより活かされていくと考える。R8の取組をとおして、より充実できるようにしていく。
- ・「創造」の学習プロセスについても、今後実践を踏まえながらの検討となるが、見通しなどの場面でどう道徳の教科書を活用していくのか事例を出していけるとよい。
- ・最終的に、市民科の充実が子どもの資質・能力の育成によりよく寄与していくこと、教員のマインドの醸成につなげていけるようにしていく必要がある。